

感染対策地域ネットワークの 今、これから

～躊躇するアナタでもアナタならきっとできる! ネットワーク構築～



司会

山形大学医学部附属病院
検査部 部長・病院教授
感染制御部 部長

森兼 啓太 先生



演者

八雲総合病院
小児科診療部 小児科診療部長
YIC-Net 顧問

吉田 雅喜 先生

感染対策地域ネットワークとは

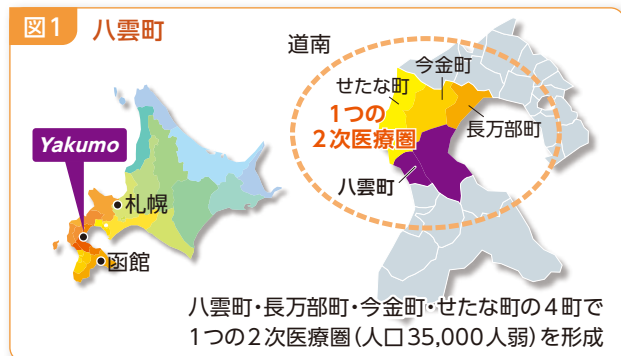
感染対策地域ネットワークには様々な形態があつてよいでしょうし、実際に全国には色々なネットワークが存在しています。その目的は恐らく共通で、「情報の共有と協業」だと思います。

今回は、私たちが取り組んでいる八雲感染対策ネットワーク(Yakumo Infection Control Network: YIC-Net)をご紹介しながら、感染対策地域ネットワークについて考えてみたいと思います。それぞれの地域のネットワーク構築において、YIC-Netの例が一助となれば幸いです。

Top Down型とBottom Up型

八雲町は北海道の南部に位置し、長万部町・今金町・せたな町を合わせた4町が一つの医療圏を形成しています(図1)。YIC-Netでは、域内の感染症の流行拡大を防ぐため様々な活動に取り組んでいます。

地域ネットワークを行動パターンから「Top Down」と「Bottom Up」に分類してみます。Top Down型は政府・都道府県・学会・大学など、上方から下に向けてのアクションが中心となるネットワークで、その特徴は視野がマクロ的で



あり、情報はどちらかというstaticです(図2)。

一方のBottom Up型は、地域の中核病院が中心になり、どちらかというミクロ的でダイナミックにどんどん動いている情報が提供されます。必然的に現場との一体感が出てくるでしょうし、それがようになってきます。私たちのYIC-Netは、Bottom Up型です(図2)。

地域情報を正しく、速やかに

ご存じの通り、感染対策の3原則は①感染源の排除、②感染経路の遮断、③健康・免疫の管理です。現代社会において、人はある程度の地域に集まって生活せざるを得ませんから、身近には必ず病原体があり、人との接触を断つことは不可能で、健康や免疫に問題を持つ方が必ず含まれています。これは現代社会の宿命ではあるものの、私たちのグループは「地域の意識が変われば、少しは何とかなるかも

図2 「Top Down」と「Bottom Up」

